Wellness Now!! 2026.8

北陸保全工業株式会社
2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 中小規模法人部門
にいがた健康経営推進企業 time 2026 マスター
新潟市健康経営認定制度 GOLD
にいがた ヘルス&スポーツマイレージ GUPPY
健康寿命をのばそう! Smart Life Project

お盆を過ぎても厳しい残暑が続いています。この深刻な猛暑に加え、各地で豪雨災害が発生し、7月26日には新潟市でも冠水による多数の被害が確認されました。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

近年の豪雨は、わずかな時間で生活や移動に大きな影響を及ぼします。外出先で想定外の事態に直面したとき、最善の判断や行動ができるでしょうか。最悪の事態を防ぐためにも、日ごろから災害リスクを意識して、備えを積み重ねていくことが大切ですね。

健康測定イベントを実施しました

8月6日、昨年の重点施策として導入した〈健康測定プログラム〉を継続し、本年1回目の測定イベントを実施しました。今回は、日本生命様のご協力のもと、ベジチェック(野菜摂取量測定)と肌診断の2つを行い、社員の皆さんが自身の生活習慣やセルフケアを見直す機会となりました。

2026.8.6 本社 打合せ室(参加者25名)

ベジチェック

体内のカロテノイド量を測定し、野菜をどれくらい食べているかを"見える化"することで、食生活を振り返るきっかけになります。

肌 診 断

肌診断は、肌の水分量・油分量・キメなどを測定し、現在の肌状態やケアの傾向を客観的に把握することで、日頃の生活習慣やスキンケアを見直すきっかけになります。

ベジチェックでは、日頃の食生活が数値として可視化されることで、「思ったより野菜が足りていなかった」「次回までに少し意識してみたい」といった声が多く寄せられました。一方、肌診断では、肌の水分量・油分量・キメなどが測定され、普段のケアの傾向や改善ポイントを知ることができ、男女問わず関心の高い測定となりました。

2026.8.6 環境事業所(参加者21名)

〈社内行事〉令和8年度納涼会 ～感謝の会～

日時:令和8年7月24日(土)
場所:ANAクラウンプラザホテル

本年の納涼会は、7月に退任された宮田常務の送別セレモニーを兼ねた催しとして、会社の発展と組織運営に尽力された宮田常務に対し、温かい拍手が送られました。

また、参加できなかった社員からのメッセージカードや思い出の写真が掲示されるなど、感謝と労いの気持ちに包まれた会となりました。

長い間ありがとうございました

Pick up!! SDGs 北陸地方整備局優良工事表彰を受賞しました

R5-7新潟国道道路維持作業 局長表彰(下請負者企業表彰)
(下請負者選任技術者表彰)

経常的な道路清掃や道路維持管理作業のほか、緊急対応としてR7.8の渇水に対する給水作業(聖籠町)にて元請職員とともに作業を実施、また、主任技術者の阿部修氏について、自社の社員の先頭に立って的確な指示を行い、円滑に作業を実施したとして評価されました。

9月は 健康増進普及月間 です

+α 9月～11月は 健康立県にいがた推進強化期間

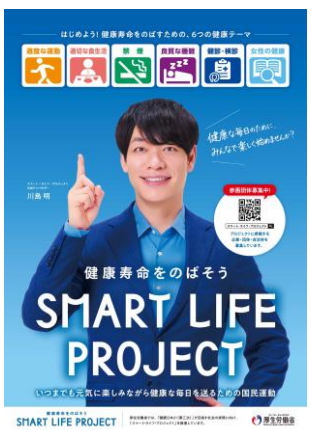
健康増進普及月間とは？

糖尿病、がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病は個人の日常生活のあり方と深く関連していることから、国民ひとりひとりが日頃の食事や運動、禁煙などの生活習慣の重要性について理解を深め、健康の増進を図り、生活習慣病の発症予防の強化を目的とするものです。

健康増進普及月間 9月1日～30日
～1に運動 2に食事 しっかり禁煙 良い睡眠～

↑健康寿命をのばそう SMART LIFE PROJECT

【運 動】毎日プラス10分の身体活動
【食生活】おいしく、バランスよく
【禁 煙】たばこの煙をなくす
【睡 眠】量と質を確保
【健 診】定期的に自分を知る
【女 性】ライフステージごとの健康課題を知る



北陸保全工業 60年の物語

第8話:「保全に頼めばなんとかなる」 ― 信頼のDNA

なぜ、北陸保全工業は「保全に頼めば何とかなる」とまで言われるのでしょうか。その信頼は、机上の計画書から生まれたのではありません。豪雪の夜や、予期せぬ災害の現場で、汗と努力によって築き上げられたものです。突き詰めれば、その源泉は二つの非常にシンプルな力に行き着きます。

信頼を形作る二つの力

- **機 動 力**:どんな時でも、迅速に現場へ駆けつける力。
- **緊急対応力**:予期せぬ災害やトラブルにも、即座に対応できる力。

このDNAは、建設業だけで生まれたものではありません。創業時のゴミ収集から、地域の環境を守る優良産廃処理事業者へと進化した環境事業もまた、同じDNAを受け継いでいます。「道路という社会インフラを守る責任感」と、「廃棄物という生活インフラを適正に処理する責任感」は、表裏一体なのです。社会の動脈(道路)と静脈(廃棄物処理)の両方を守り抜くこと。その日々の実践こそが、「保全に頼めば何とかなる」という信頼の源泉なのです。

共通するDNA

災害時の支援活動などで数々の感謝状をいただいている事実は、このDNAが地域社会への貢献と深く結びついていることの証です。次回は、この信頼のDNAを未来へどう繋いでいくのか、次世代への継承をテーマにお届けします。

次回 第9話:未来へつなぐ襷 ― 創業者から次世代へ